

小児看護技術論

単位数（時間数）：1 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：2 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・濱中喜代

科目担当者（職位・氏名）：講師・大日方るり子 講師・遠藤麻子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：76

■ 授業概要

小児看護援助論の理解を基にして、健康を障害された小児の発達段階および経過別看護、状況別看護において、必要な小児看護学におけるコアとなる技術・ケア・スピリットについて学習し、小児と家族に対する看護の方法を教授する。小児看護におけるコアな技術については、シミュレーション教材を活用した演習を通して実践に即した方法を教授する。

■ 到達目標

1. 小児のヘルスアセスメントの方法を理解し、基礎となる技術が実施できる。
2. 健康を障害された小児の各発達段階（乳児期・幼児期・学童期・思春期）に応じた援助の方法について説明できる。
3. コアとなる小児看護技術Ⅰ（調乳・授乳、経管栄養、食事介助、清潔ケア、身体計測、コミュニケーションの仕方、バイタルサインの測定、遊びの援助等）について、演習を通して身につける。
4. コアとなる小児看護技術Ⅱ（検査、処置介助、プレパレーション、呼吸管理、点滴管理・経口与薬、保育器内の児のケア、排泄ケア、不慮の事故予防と救急蘇生法等）について、演習を通して身につける。
5. 紙上事例の看護過程の展開を通して、小児と家族に対する看護方法をケア・スピリット（倫理的な姿勢）も含めて修得できる。

■ 教育内容

小児看護学

■ キーワード

ヘルスアセスメント、発達段階に応じた援助、コアとなる小児看護技術、健康教育

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	小児のヘルスアセスメント①	オリエンテーション （授業概要、演習課題ノートについて） 小児における成長・発達の段階ごとの特徴 小児におけるヘルスアセスメントの項目 小児との接近法 子どもと家族との援助関係を形成する技術 身体発育のアセスメント等（講義）	濱中
2	小児のヘルスアセスメント②	精神発達、心理社会的側面の評価 栄養状態・活動と休息のアセスメント等 （講義）	大日方
3	コアとなる小児看護技術の習得Ⅰ-①	①乳幼児期の調乳・授乳、（講義・演習） ②経管栄養、離乳食、食事介助（講義・演習）	共同
4	小児のヘルスアセスメント③	フィジカルアセスメント：身体計測、 バイタルサイン計測を含む（講義）	遠藤
5	コアとなる小児看護技術の習得Ⅰ-②	健康障害がある子どもの模擬事例に対するフィジカルアセスメント、清潔ケアの展開 ①身体計測、洗髪・入浴、子どもと親とのコミュニケーションの仕方 ②バイタルサイン測定、清拭・臀部浴、陰部洗浄、サークルベッドの使用 方法（2クラスに分かれて演習）	共同
6	コアとなる小児看護技術の習得Ⅱ-①	点滴管理（刺入部の固定・観察、輸液ポンプの使い方、滴下数の確認、安全管理等） 採血（介助） 採尿 検査・処置を受ける子どもへの看護・介助 （心電図・パルスオキシメーター・腰椎穿刺・骨髄穿刺）（講義）	大日方

7	コアとなる小児看護技術の習得Ⅱ-②	呼吸管理（酸素療法、吸引、吸入） 経口与薬、 不慮の事故時の応急処置、 救急蘇生法（講義）	遠藤
8 9	コアとなる小児看護技術の習得Ⅱ-③	①検査・処置介助（腰椎穿刺・骨髄穿刺）、 採尿、GE、綿棒刺激（演習） ②点滴管理・採血（介助）（演習） ③呼吸管理、経口与薬（演習） （2クラスに分かれて演習）	共同
10	コアとなる小児看護技術の習得Ⅱ-④	①救急蘇生法 ②不慮の事故予防および応急対応 ③保育器の取り扱いと器内の児のケア （2クラスに分かれて演習）	共同
11	コアとなる小児看護技術の習得Ⅱ-⑤	遊びの援助（講義）	濱中 ゲスト スピー カー
12	模擬事例の看護過程の検討	ゴードンの機能的健康パターンを基盤とした小児の主なアセスメント視点を教授した後、看護過程に基づき、小児によく生じる疾患の病態生理、小児と家族の特徴、および状況に基づいた必要な看護ケアを小グループで討議する。（講義・演習・GW）	遠藤
13 14	模擬事例の看護過程の発表	各グループが模擬事例に対する看護過程をプレゼンテーションし、それを基にディスカッションする。（演習・GW）	共同
15	模擬事例の看護過程の解説とまとめ	提出された看護過程演習課題について解説し、それを基に各自看護過程を修正する。 （演習）	共同

■ 履修条件

小児看護学概論、小児看護援助論を履修していること。

■ 成績評価方法

定期試験 70%、演習での事前事後の学習状況 30%

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・希望者に対して、試験のフィードバックを行う。希望者は、試験日以降 2 週間以内に、事前にアポイントをとったうえで、科目責任者の研究室を訪ねること。
- ・演習の事前学習に関しては、授業時に解説を行う。また、提出された課題はコメントを付して返却を行う。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
 - 33 巻 小児看護学 ① 小児の発達と看護
 - 34 巻 小児看護学 ② 小児看護技術
 - 35 巻 小児看護学 ③ 小児の疾患と看護
 - 19 巻 基礎看護学 ② 基礎看護技術 I コミュニケーション/看護過程/ヘルスアセスメント

■ 参考書・参考資料等

- ・小林京子、高橋孝雄編集 (2022) 『新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論/小児保健』メヂカルフレンド社
- ・小林京子、高橋孝雄編集 (2022) 『新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護』メヂカルフレンド社

その他は講義中に提示する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業1コマにつき、事前・事後学修として計45分程度必要とする。
- ・事前学習として、指定された範囲の教科書を通読すること。
- ・事後学習として、授業（講義）終了後には、授業時配布資料と教科書を読み、次回の授業（演習）に向け、演習ノートをまとめること。授業（演習）終了後には、演習ノートの学びを記載すること。
- ・演習課題に関しては、授業時に課題内容等を記した技術演習ノートを配布し、それを基に説明するため、授業時の指示に従って課題に取り組むこと。

■ 担当教員からのメッセージ

援助論に続いて、健康を障害された小児と家族を援助するために不可欠な看護のコアとなる小児看護技術とケア・スピリットを中心とする学びの機会です。実際に関連する視聴覚教材から具体的に看護の相手である健康を障害された小児と家族をイメージして学修を進めていきましょう。実習などの実践の場で看護する時の基礎になる学びなので予習復習を丁寧に進めていきましょう。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

科目全体に関することは科目責任者、各演習に関することは演習担当教員にお問い合わせください。研究室を訪ねる際は事前にメールでご連絡ください。

濱中：学長室、hamanaka★iwate-uhms.ac.jp、16時半～17時半

大日方：研究室15、obinata★iwate-uhms.ac.jp 月曜日 13時半～17時

遠藤：研究室19、aendo★iwate-uhms.ac.jp、月曜日 13時半～17時

（※メールの際は★を@にしてください）

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の实務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

病院での看護師実務経験をいかし、小児看護技術に関する専門的で実践的な講義・演習を行っています。